

腹部のヘルニアについて

○腹壁癒痕(はんこん)ヘルニアとは

お腹の手術の傷(癒痕)の部位が弱くなって腹壁が薄くなり、おなかの中の腸や脂肪がせり出してくることによりこの部位がふくれてくる状態です。術後に傷が化膿した場合や急に太った場合に起こりやすくなります。立ち上がったときや咳や排便時などおなかに力を入れたときに大きくふくれてきます。自然に治ることはなく、放置すると次第に大きくなってきます。

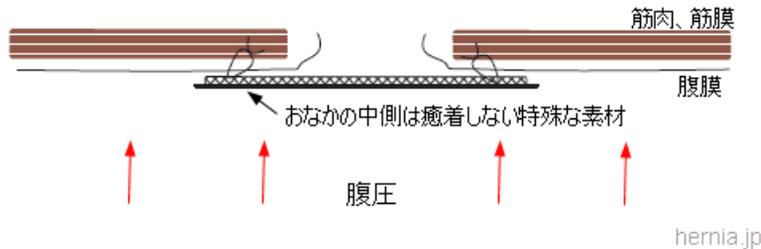
○臍(へそ)ヘルニアとは

臍はそもそもへその緒のなごりですが、人によっては臍部が薄く、弱い場合があります。臍ヘルニアは、おなかの中の腸や脂肪がせり出してくることにより臍がふくれてくる状態です。子供に多い病気ですが、成人でも妊娠や肥満、腹水など腹圧上昇が原因で臍ヘルニアを起こすことがあります。

これらのヘルニアに対する治療は手術が唯一の方法で、薄くなった腹壁を補強してふくれないようにします。

腹壁ヘルニアの手術

基本的には、ふくれてくる部位(ヘルニア門)を医療用人工補強材(メッシュシート)でふさぐ手術です。



当院では全身麻酔で手術を行いますが、

(1)腹腔鏡下ヘルニア修復術、(2)開腹ヘルニア修復術

の二通りがあります。

当院では、小さなヘルニア以外は腹腔鏡手術を積極的に行っています。

腹腔鏡下ヘルニア修復術

おなかに小さな穴を数か所開け、手術用ビデオカメラ(腹腔鏡)でおなかの中からヘルニア部位を観察しながらメッシュシートでヘルニア門をふさぎます。

開腹ヘルニア修復術

開腹術でヘルニア門を露出させてふさぎます。ヘルニア門が小さな場合は、糸で縫い縮めます。ヘルニア門が大きな場合は、メッシュシートでヘルニア門をふさぎます。

○入院と退院後について

入院期間は10日前後になります。退院後は、日常生活は普段通りできますが、1か月ほどはなるべく腹圧がかからないように活動に注意していただいています。